

電子工学国際インターンシップ2

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2022年09月12日 ～2022年09月20日	タイ	キングモンクット工科大学ト ンブリ校	・電子工学科、電気工学科 ・学部3年生、学部4年生	(芝浦工業大学) 学生11名、学生バイト1名、 教員3名 (キングモンクット工科大学ト ンブリ校) 学生12名、教員4名	横井 秀樹(電子工学科)、加 納 慎一郎(電子工学科)



図1 ホワイトボードを用いた議論

2022年度電子工学科主催のキングモンクット王立工科大学(KMUTT)のElectronics and Telecommunication Engineering (ENE)学科とのgPBLの派遣プログラムを実施した。このプログラムは双方向で実施しており、9月に本学電子工学科の学生がタイ・バンコクに渡航し、現地でワークショップを行った後、10月終わりから11月初旬にKMUTT・ENE学科学生が来日し、本学で同じメンバーでワークショップを行う内容となっている。本学の学生は、派遣と受入の両方のプログラムの参加が必須となっており、派遣のプログラムで電子工学国際インターンシップ2の2単位が付与され、受入のプログラムで受入型グローバルPBL1または2の2単位が付与される。

コロナウイルス感染拡大の影響で2回のオンライン実施を経て、本年度は2019年度以来の対面実施となった。

オンライン実施でも学生同士のコミュニケーションを得ることができ、PBLの教育効果はある程度感じることはできたが、海外学生とのコミュニケーション能力を伸ばす教育効果は対面実施に比べて限定的であった。日本では十分にコロナの感染も収まっていない中での募集開始となったが、11名の電子工学科3年生が応募し、全員をプログラム参加学生として選出した。KMUTT・ENE学科の学生も来日を心待ちにしていたようで、40名を超える応募があったと聞いており、選抜の筆記試験を実施し、その後、30分を超える面談で12名の参加者を選抜したとのことである。

本年度は、参加者が4名または5名の5チームに分かれて、各チームにはセンサーとマイコンを組み合わせた生体電子計測に関するプロジェクトテーマを設定するように指示を出した。ワークショップでは心拍数計測を用いて得られた情報から人の感情や行動を読み取るようなプロジェクトを行うチームが多かった。また、本テーマは担当教員の一人の加納教授の専門でもあり、PBLプログラム開始直後に加納教授が講義を実施した。派遣プログラムでのプロジェクトテーマ設定、計画、進捗については、2回のプレゼンテーションで各チームが報告した。

今回の参加学生は、これまでの本gPBLプロジェクトの中で最も積極的にワークショップに取り組んでいたと感じられた。ENE学科の先生からもプロジェクトがとても盛り上がっていたとの感想を



図2 ガイダンス



図3 生体信号計測に関する講義



図4 ワークショップでの議論